令和６年１月１日発行（毎月１回１日発行）通巻第713号

林業福島

No. 713

題字　公益社団法人福島県森林・林業・緑化協会
会 長　小檜山善継

1

2024

監　　修■福島県農林水産部
表紙の写真■出荷待ち・木材資源

明るい未来へ、「ひとつ、ひとつ、実現する　ふくしま」

福島県知事
内　堀　雅　雄

謹んで新年の御挨拶を申し上げます。

昨年は、新型コロナウイルス感染症が五類感染症へ移行したことから、県内においても様々な催しが再開されるなど、コロナ禍前の日常を徐々に取り戻しつつあることを実感できた一年でありました。

また、震災と原発事故から間もなく十三年が経過する中、避難指示区域が縮小したほか、福島国際研究教育機構（F-REI）が始動するなど、明るい光が一層の強まりを見せてまいりました。

さらに、震災後、五五の国・地域で行われた県産農林水産物の輸入規制は七つの国・地域にまで減少し、県内への移住者数や新規就農者数が過去最多を更新するなど、これまでの挑戦が目に見える形となって現れております。

一方で、未曾有の複合災害からの復興・再生、急激に進む人口減少や度重なる自然災害への対応など、本県は困難な課題が山積しております。特に、ＡＬＰＳ処理水の問題は、今後数十年にわたる長い取組が必要となります。

県といたしましては、引き続き、これまでの挑戦を「シンカ（進化・深化・新化）」させながら、様々な課題に全庁一丸となって取り組んでまいります。

まず、震災と原発事故からの復興・再生につきましては、復興の状況に応じた被災者の生活再建や事業・生業の再生、帰還に向けた環境の整備などに取り組むとともに、廃炉と汚染水・処理水対策や、風評の払拭と風化の防止などに着実に取り組んでまいります。

次に、人口減少対策につきましては、妊娠・出産・子育ての希望を叶える環境づくりとともに、若者等の県内定着や移住・定住の促進などに取り組んでまいります。

さらに、台風第十三号に伴う大雨災害からの復旧につきましては、被災された方々の一日も早い生活再建や事業・生業の再生、公共施設の早期復旧に向けた取組を進めてまいります。

加えて、厳しい状況にある本県の健康指標については、オール福島の体制で健康づくりに取り組むなど、県民の皆様の健康増進を積極的に推進してまいります。

福島県が抱える課題は複雑であり、解決には長い時間が必要となります。だからこそ、総合計画に掲げた目標を「ひとつ、ひとつ、実現」し、県民の皆様お一人お一人が将来に夢や希望を持ち、豊かさや幸せを実感することができる福島の未来を創り上げるため、全力で挑戦を続けてまいりますので、今後とも、一層の御支援、御協力をお願い申し上げ、新年の御挨拶といたします。

《もくじ》

とびら
明るい未来へ、「ひとつ、ひとつ、実現する　ふくしま」
福島県知事　内　堀　雅　雄……1
新春特集　皆伐再造林の推進に向けて…2～4
森林・林業の復興に向けて国へ緊急要望…5
「福島の森林・林業再生に向けたシンポジウム～福島の森と木の親子体験オンライン教室2023～」の開催…6
林業アカデミーふくしま研修日誌⑧……7
普及指導員通信……8
森林管理署メモ……9
公社だより……10
木の文化を育む㊽……11
木材市況・ふくしま東西南北……12
はなしのひろば・お知らせコーナー……13

春集
新特

皆伐再造林の推進に向けて

新春特集❶

主伐・再造林の推進に向けて～福島県の取組～

福島県森林林業総室

はじめに

福島県の森林面積は九七三千ヘクタールと県土の約七割を占め、うち民有林は五六五千ヘクタールとなっています。また、民有林のうちスギを主体とした人工林では、木材として活用できる年齢に達した森林（五一年以上）が一三一千ヘクタールの約六割と多く、若い森林が少ないことから（図1）、将来にわたって安定した県産材を供給するためにも、森林の若返りを図る「主伐・再造林」が必要となっています。そこで、今回は、福島県の主伐・再造林について主な取組を紹介します。

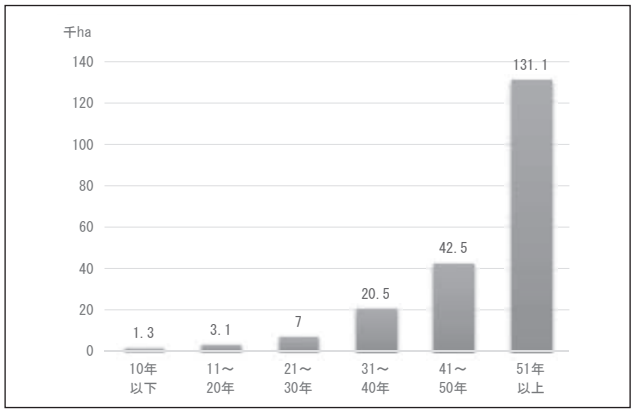


図１　民有林人工林齢別面積（令和４年度）

どうやって進めていくか

福島県の農林水産業は、福島県農林水産業振興計画（令和四～十二年度）で基本目標やめざす姿、施策の展開方向を定め、取組を進めています。この計画の中で、主伐・再造林は、利用できるまでに育った森林資源を効果的・効率的に活用していく必要があること、森林は県土の保全や多面的機能を発揮する場として次世代に引き継ぐ必要があることから、主伐をしたら再造林を行い、森林の若返りやバランスのとれた森林資源へ誘導するとともに、荒廃が懸念される森林の整備などを進めていくこととしています（図2）。

本計画の「施策の展開方向」に定めた主伐・再造林に関連する内容は次のとおり。

第５節　戦略的な生産活動の展開

○県産農林水産物の生産振興
- 主伐後の再造林、広葉樹林化、人工林の齢級構成の平準化
- 森林の若返りやバランスのとれた森林資源への誘導

○産地生産力強化
- 林業生産性の向上と低コスト化の推進

第６節　活力と魅力ある農山漁村の創生

○農林水産業・農山漁村が有する多面的機能の維持・発揮
- 森林計画制度の下での適正な伐採、更新等の取組促進
- 伐採跡地、荒廃が懸念される森林の整備

図２　福島県農林水産業振興計画における主伐・再造林の「施策の展開方向」

実際にやっていることは

主伐後は、再造林のほか、下刈や間伐などの森林整備（手入れ）を行いますが、再造林には多くの費用がかかることから、低コスト化や省力化が必要です。そこで、林業事業体等が取り組みやすくなるよう、福島県森林環境税を活用し、伐採・搬出に使用した林業機械を苗木運搬にも使い、植栽まで並行又は連続して行う一貫作業を支援しています。この事業開始当初の令和二年度実績は一八ヘクタールでしたが、令和四年度には三六ヘクタールまで増加し、着実にその取組が広がっています。

次に、森林の若返りには植栽する苗木が必要です。これまでも県は苗木生産を進めてきましたが、近年、社会問題となっている花粉症対策も考えながら再造林を行っていく必要があります。このため、平成二七年度より花粉症対策苗木の生産に取り組み、令和元年度は一万七千本だった苗木の生産量を令和四年度には三五万五千本まで増加させることがで

図３　生産された花粉症対策苗木

きました（図３）。また、令和五年度には花粉が少なく、成長の早いエリートツリーの展示林を新地町に造成し、花粉症対策苗木のＰＲにも努めています。

また、主伐・再造林が進めば、木材がたくさん生産されることになります。この伐採した木を木材として活用することも重要な施策の一つです。このため、木材の加工流通施設の整備への支援や、利用用途が少ない大径材（伐期を遅くして太くなった木材）の有効活用を図るため、県産材のサプライチェーンを構築する取組への支援を行っています。

おわりに

今回紹介した内容のほか、主伐・再造林には、山で働く人をどう増やしていくか、山で作業をするための道をどこにどのくらい作っていくかなど、いろいろな分野の取組が関連しています。また、県民の皆様に森林を知ってもらい、興味を持ってもらい、理解していただくことも重要です。これには、県、市町村、森林所有者、林業事業体、県民の皆様などとの連携や協力が欠かせません。森林の循環利用を図４に示しましたが、どの繋がりが途切れたり、滞ったりしても循環は続かないため、主伐・再造林を進めるといっても簡単ではありませんが、循環の流れをつなげて続けていく支援を行い、皆さんと一緒に、福島県の豊かな森林を育てていきたいと考えています。

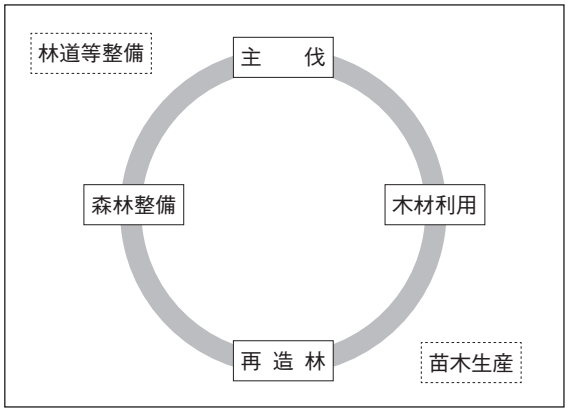


図４　木を伐って、使って、植えて、育てる「森林資源の循環利用」

新春特集❷

皆伐再造林により「儲かる林業、誇れる林業」を目指して

「林業福島」編集発行人　飯沼隆宏

はじめに

新春特集①の県ご寄稿で触れられている皆伐再造林の一貫施業を支援する福島県の補助制度の充実ぶりは、他の都道府県の追随を許しません。

この制度を活用し皆伐再造林を進めることは、持続可能な林業と森林の公益的機能発揮とを実現する極めて有力な方法であり、「儲かる林業、誇れる林業」へ通じる道と思っています。

林業、そしてサプライチェーンでつながる人々

まず、林業・木材産業について改めて見つめてみます。

林業は、育林業と素材生産業に分けられます。森林所有者が木を植え育て立木を販売するのが育林業、その立木を伐採し丸太を販売するのが素材生産業。その丸太は、製材業、木材加工業、建築業等へと渡っていき建築、合板、製紙、バイオマスなど様々に活用されますが、このサプライチェーンの根幹が森林所有者が営む育林業であることを押さえておかなければならないと思います。

森林所有者が無関心で無作為の状

態では、このサプライチェーンは持続できません。森林所有者に「儲かる林業、誇れる林業」を実感してもらう。そのための皆伐再造林を、あるいはその環境を、どのように創り上げるか。それこそが、サプライチェーンに関わる多様な業種の皆さんに取り組んでいただきたい第一の課題と切に望んでいます。

サプライチェーンの持続可能性を高めるプラットホーム

過日、他県においてではありますが、木造住宅にこだわって先進的な取組を行っている工務店の方にお話を伺いました。「木材の安定供給を求めるシステムではなく、安定的な需要を明示し適正価格で取引するシステムを構築する。」と力強く仰っていました。

私なりに解説すれば、E70以上あるいはE90以上の木材を構造材に使うだけでなく、この強度に満たない木材を適材適所で十分に活用できるよう設計面で工夫をし、需要の安定的な量と質を確保して、必要な木材の情報を林業木材産業者に示すものであり、多様な丸太が生産される皆伐、そして跡地の再造林を推し進める力となる可能性を持った取組と思います。このような取組が広がり建築のみならず製紙やバイオマス等の分野も含んだプラットホームが創設され、ＡＢＣＤ材が余すことなく活用される需給情報が飛び交い皆伐再造林が進む近未来が実現する。この夢が大きく膨らみました。

ＳＤＧｓが目指すもの～林業の役割

新春の夢が大きく膨らんだ勢いで、ＳＤＧｓに触れます。

私たちが携わる林業がＳＤＧｓの目標達成に貢献していると認識したところで思考停止になってはいけないと思っています。この目標を達成するための行為が産業として持続的に成立することを目指さなければいけない。だからこそ、「儲かる林業、誇れる林業」を目指さなければいけない。そして、そこに投資がなされる、まさに新しい資本主義の経済社会を創り上げる端緒となりたい。強くそう思います。

結びに～福島県林業会議の取組

このような中、福島県林業会議では、林業協会、森連、木連、苗協が主な実施団体となり、自分たちが実践することから始めようという思いのもと、皆伐再造林の低コスト化、省力化等を目指した実証事業に取り組んでいます。（詳報：林業福島七〇八号）まさに今、いわき市三和の一〇〇年生スギ人工林で実施している真っ最中であり、これらの成果を取りまとめて、森林所有者の方々に「儲かる林業、誇れる林業」への希望を持っていただける情報を発信していく考えです。

今年も大きな目標に向かって着実な一歩を積み重ねてまいりましょう。

森林・林業に携わる皆様にとって、「林業福島」愛読者の皆様にとって、新年が幸多き一年となりますように心から祈念して結びとします。

福島県林業会議による皆伐再造林実証事業の現地研修

皆伐再造林実証事業における宇都宮大学農学部有賀教授（右から２人目）の現地指導

森林・林業の復興に向けて国へ緊急要望

福島県林業会議

県内の森林・林業関係十団体で構成する福島県林業会議は、令和五年十二月六日、東日本大震災からの森林・林業の再生に向け、一昨年度からスタートした「第二期復興・創生期間」においても必要な予算を確保するよう、復興庁と林野庁に要望しました。

同会議はこれまでも復興・創生に係る新たな課題について継続して取り組めるよう要望活動を展開しており、今回、新年度の予算編成に向けて、ふくしま森林再生事業、広葉樹林再生事業の実施に必要な予算の確保、県産材の放射性物質対策の継続と樹皮の処理等への支援、海岸防災林が成林するまでの保育管理に要する予算の確保などを要請しました。

土屋品子復興大臣、青山豊久林野庁長官ともに、要請をしっかり受け止め、第二期復興・創生期間において必要な予算の確保に努力する旨発言いただきました。

復興庁にて、右から田子英司県森林組合連合会長、土屋品子復興大臣、小檜山善継県森林・林業・緑化協会長、鈴木裕一県木材協同組合連合会長

林野庁にて、右から二人目が青山豊久林野庁長官

ふくしまの森林・林業の復興に向けた緊急要望項目

1　第２期復興・創生期間における予算の確保
　復興の進捗により生じる新たな課題への対応など必要な予算の確保と財源措置の継続

2　放射性物質対策と森林整備等の推進
⑴「ふくしま森林再生事業」を始めとした各種復興施策に係る予算の確保
⑵　きのこ原木の安定供給に向けた「広葉樹林再生事業」の実施に必要な予算の確保

3　林業・木材産業の再生に向けた支援
⑴　丸太、製材品の放射性物質濃度調査、木材の安全確保に要する検査、樹皮の処理等、放射性物質対策の継続支援
⑵　きのこ原木、おが粉など生産資材の調達を支援する事業の継続
⑶　山菜・野生きのこのモニタリングや出荷制限解除に向けた取組の継続

4　海岸防災林造成事業に係る予算の確保
　海岸防災林造成事業完了までの事業費の確保及び成林するまでに要する十分な予算の確保

「福島の森林・林業再生に向けたシンポジウム ～福島の森と木の親子体験オンライン教室２０２３～」の開催

（一社）全国林業改良普及協会（事業受託団体）

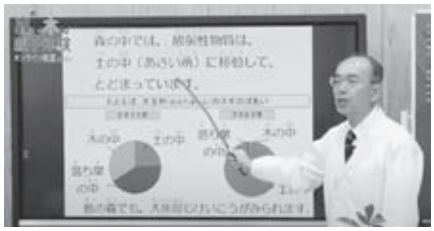
「森林・林業再生に向けた普及啓発事業（林野庁）」シンポジウムは、二〇二〇年からオンラインにより行っており、今年度は十一月二五日に、福島県いわき市立三和小中学校からライブ配信を行い、福島県・東京都を中心とした全国五〇〇組の親子等約一、三〇〇人の参加を得ました。同シンポジウムは、福島の森林・林業の再生に向けて、森林内の放射性物質の動態や林業再生に向けた取組など、これまでに得られた科学的知見などを分かりやすく伝える目的で二〇一四年から開催され、二〇一九年からは幅広い世代へ情報を発信するため、親子を対象に実施しています。参加者は、各家庭に配布された体験キットのうち、なめこ栽培キットを約二週間前から育てながら、配信当日を迎えました。

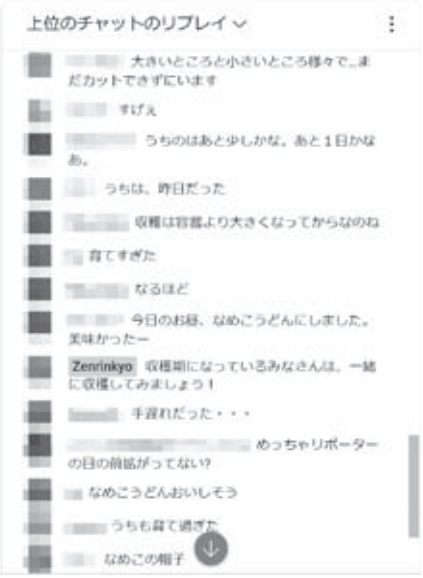
配信では、①福島の森のハカセになろう（放射線の基礎知識、森林内の放射性物質の状況の解説）、②きのこの不思議（なめこ生産現場の解説、収穫体験等）、③森と木に親しもう（各家庭に配布した端材の木工体験キットの紹介、森林体験施設や農林水産省ｍａｆｆチャンネル内の動画コンテンツ「福島のもり応援隊」の紹介）の三つのプロフラムにより、楽しみながら学び、体験をしました。

今年度初めて、いわき市内のなめこ生産者との交流コーナーの時間を設けるなど、登壇者と参加者のコミュニケーションを大切にしました。チャット（Ｙｏｕｔｕｂｅ上でリアルタイムにメッセージをやりとりできるツール）によるリアクションや質問の書き込みは、ライブ配信当日ならではの楽しみであり、活発に行われたことは成果の一つです。また、福島県内の施設や動画コンテンツを紹介することで、配信後に福島の森林・林業を応援するアクションに直接つなげられるよう工夫をしました。

終了後に行ったアンケートでは、福島県外の参加者からは、「森の中の放射線の量や福島県内にいろいろな森があることを知った（子）」、「なめこを育てる楽しさを知った。生産者のご苦労も伝わってきた（親）」といったコメントの他、「きのこは苦手だけど、福島に遊びに行きたい（子）」、「安心して福島の食べ物を買えるいい機会となった（親）」等の福島を応援する声が非常に多く寄せられました。また、福島県内の参加者からは、「きのこの放射線量を測っているなんて知らなかった（子）」、「質問に答えてもらって嬉しかった（子）」、「いつも工作はしないが、動画が分かりやすく、木工が体験できた（親）」、「放射線など親の知識だけでは子どもに教えにくい部分を一緒に学ぶことができた（親）」等が寄せられ、福島の森や木、放射性物質等の実情を知ってもらう機会となりました。

最後になりましたが、福島県はもちろん、いわき市と東京都港区には市区内の全小学校に告知チラシの配布・配信にあたり多大なるご協力をいただきました。厚く御礼申し上げます。





▲一番上の写真はカメラや機材が並ぶ配信会場の様子。三和小中学校の校舎は福島県産材をふんだんに使っている。登壇者写真２枚目左から、講師：鳥取大学北氏、講師：森林総合研究所篠宮氏、司会フリーアナウンサーの長久保智子氏、㈲加茂農産加茂氏、森林総合研究所小松氏。一番下の画像は配信時のチャットが盛り上がっている様子。

▲シンポジウムの配信アーカイブ等映像コンテンツは、YouTubeで「福島のもり応援隊」で検索または上記からアクセス。

林業アカデミーふくしま研修日誌⑧

福島県林業研究センター

就業前長期研修八ヶ月目の十一月の研修では、いよいよ実習がメインになってきました。

○十一月の研修内容

「チェーンソー伐木造材技術」では、三日間妙見山実習フィールドで間伐実習を行いました。約四〇年生のかなり密集したスギ林での伐倒だったこともあり、多くの木がかかり木になったので、適切な処理についても学ぶ機会となりました。

「架線集材」では、九日間にわたる実習を、林業研究センター内と塙町実習フィールドで行いました。林業研究センター内では規模は小さいながらも、エンドレスタイラー式でワイヤーを全て一から張り、以前の実習で伐採したスギ材を集材しました。

塙町実習フィールドでは、実際の現場のような形で玉掛けと架線の操作実習を行いました。

「つる切り、除伐、枝打ち等」では、樹高約五㍍のヒノキ林で、手が届く範囲の二㍍程度まで枝打ちを行いました。

「縦断・横断測量」・「林内路網」では、図面での机上設計、路線踏査と平面・縦断・横断測量を行い、その結果を基に図面を作成しました。図面上からは読み取れないものがたくさん存在することを、踏査することで理解できました。また、ＦＲＤを使った机上設計は非常に短時間で設計でき、画期的なものでした。

「現場管理の基礎」の講義では、林業経営に関わるコスト計算などを学びました。

○研修生の感想　緑川海斗さん

林業アカデミーふくしまでの研修も後半戦に入りました。十一月の前半は主に九日間にわたる架線集材の実習を行いました。九日間のうち七日間はアカデミー敷地内での実習で、道具のメンテナンスや索張り、集材機の操作から片付けまでの一連の流れを行いました。中でも集材機の運転は複雑でとても難しいものでした。残りの二日間は塙町実習フィールドでの実習でした。集材機の操作が最新のリモコンでの操作に変わり、レバー式のものよりもやりやすかったです。先柱の状況を見ながらワイヤーに問題がないかを確認して操作をしなくてはならないので、考えることが多く完璧に操作する講師陣の凄さを実感しました。

九月の学科と合わせて十七日間の架線集材も終わりを迎え、残りの研修期間も少なくなって来ました。一日一日を大切に、研修に取り組んでいきたいと思います。

○研修生の感想　渡辺諒豊さん

林業アカデミーふくしまに入講してから早くも八ヶ月になりました。十一月は林業事業体に就業する上で必要な知識や技術を身につけることを目的とした講義が多かったように感じました。縦断・横断測量の実習では、実際に山に行き平面測量、横断測量、縦断測量を行いました。測量の方法と山を歩きながら測量する大変さも知ることが出来ました。また、翌日には測量した結果を図面に書き上げる作業をしました。ＦＲＤを使えば、データを入力するだけで路網を作ることができ簡単ですが、自分の手で書き上げることで分かることや学べることがあり、楽しく作業できました。

林内路網の実習では、路網作りで必要になってくるバックホーでのすきとり、ならし、転圧の一連の作業を平地で一日練習しました。仕上げのバケットを使った転圧とキャタピラを使った締め固めの重要性も学びました。

来月からは今まで以上に現場での実習が増えていきます。安全意識をより一層高め、怪我や事故に気をつけて、日々の研修に励みたいと思います。

架線集材の様子

縦断測量の様子

普及指導員通信

県南地方におけるふくふくしめじ（福島H106号）の普及について

福島県県南農林事務所
林業普及指導員　緑　川　智　子

１　はじめに

福島県の栽培きのこは、2011年の福島第一原子力発電所の事故（以下、原発事故）により大きな影響を受け、平成22年に49.3億円あった栽培きのこ類の生産額は、令和３年では33.7億円と原発事故以前の約７割にとどまっています。

このような状況の中、本県では、栽培きのこの生産振興のため、県オリジナル品種のほんしめじ「ふくふくしめじ（福島H106号）」の普及に取り組んでいますので、県南地方の取組をご紹介します。

KENNAN_NOURIN
県南農林事務所Instagram

２　これまでの取組

県では、ふくふくしめじの栽培技術の確立に向けて、平成29年から令和２年にかけてモデル地区を設定し、その栽培試験に取り組んできました。

その後、令和３年度からは、モデル地区で栽培に取り組んだ生産者が、菌床を購入し、栽培を継続しています。

当所では、（公社）福島県森林･林業･緑化協会きのこ振興センター、県林業振興課及び県林業研究センター（以下、関係機関という。）の協力のもと、以下の支援を行いました。

⑴　生産者への栽培指導

ふくふくしめじの栽培技術の普及のため、栽培期間中は定期的に生産者のハウスを訪問し、栽培管理状況を確認しました。

その際、管理方法に改善点があればその場で指導するとともに、栽培記録を作成し、関係機関と共有することで、栽培技術の定着に努めました。

⑵　生産者及び関係機関との交流の促進

生産者や関係機関の交流と栽培技術の共有を図るため、モデル地区ごとに生産者が集まる機会を設けました。

生産者からの栽培方法の報告や、関係機関による生産者の意見の聞き取りが行われ、栽培技術の定着と課題の発見につながりました。

写真１：巡回指導の様子

写真２：生産者と関係機関の交流の様子

３　今後の展開

ふくふくしめじは、生産者の栽培技術習得や菌床の品質向上により、生産量が安定した反面、高収益化や販路の拡大が課題となっています。

そこで当所では、ふくふくしめじの栽培コストや販売実績を含む生産状況を把握するため、生産者の協力のもと、今年度から調査を実施しています。

この調査をもとに、管内の生産状況を把握することで、改善点の洗い出しや栽培コスト削減を図り、ふくふくしめじの高収益化を目指します。

また、当所のInstagramや農林水産部公式YouTubeチャンネル「1400のネタばらし」を活用したPRを継続することで、消費者の認知度向上を図り、販路拡大や消費者の購買意欲向上を目指します。

森林管理署メモ

福島森林管理署が取り組む獣害対策

福島森林管理署

福島森林管理署は、福島市をはじめ中通り九市町村の国有林を管理しており、管内の国有林では、ツキノワグマによりスギなどの樹木の皮が剥がされる被害への対策を実施してきました。ところが、平成の終わり頃に郡山市の造林地内でニホンジカと思われる獣類の足跡や植栽木の食害が散見されるようになったことから、地元猟友会等の目撃情報も得て、各地にセンサーカメラを設置しモニタリングを行うとともに、食害対策を開始しました。

モニタリングについては、福島市、大玉村、郡山市に計十六台のセンサーカメラを設置して出現する獣類の確認と出現傾向の分析を行っており、県北部ではカモシカやイノシシ、ニホンザル、ツキノワグマの出現が多数確認され、ニホンジカも少数ですが出現がありました。

次いで大玉村、郡山市では、カモシカやツキノワグマとともにニホンジカの出現も多く、昨年の令和四年次データでは子連れの個体も確認出来るなど、生息域の拡大と定着が懸念されます。

現在、福島県の中通りにおけるニホンジカの生息は低密度ですが、前述のとおり年々その確認事例は増えており、生息状況の把握と被害の対策が必須になると思料されます。

福島森林管理署では、『野生鳥獣保護管理検討会ニホンジカ（福島県自然保護課）』、および『八溝山周辺国有林ニホンジカ対策協議会（茨城森林管理署外）』に参画して意見交換や情報共有を図るとともに、現地での対策について打合せ、検討を行い、事業を進めています。また、郡山市安積町にある『福島県林業研究センター』が実施する食害調査のフィールドとして、同市内の国有林を提供しています。

大玉村、郡山市の国有林では、ニホンジカやノウサギが好まないとされる忌避剤の散布や職員による捕獲事業を展開しており、忌避剤散布については、その効果や使用法の詳細を県、市町村、事業者への周知を目的に、令和五年六月十六日に「忌避剤散布勉強会」を大玉村の造林地で開催し、参加者が実際に散布を体験して、使用感などを確認していただくことが出来ました。

また、最もニホンジカの出現が多い、郡山市の妙見山国有林と山口高籏国有林の二箇所を実施区域として有害鳥獣捕獲を計画し、地元猟友会郡山支部の協力や福島大学の望月准教授からアドバイスを得るなどして、令和二年度から捕獲事業を実施しています。

捕獲にはくくり罠を使用し、毎年十一月から一ヶ月間しており、令和二年は一頭、令和三年は二頭の捕獲に至りましたが、令和四年は〇頭に終わったことから、今後、実施区域や罠の設置箇所、時期、期間を再検討しつつ、引き続き実施する考えです。

さらに、令和五年四月七日に猟友会郡山支部と捕獲協力の協定を締結し、国有林内での効率的な捕獲や定期的な情報共有の機会を設けるなど、ニホンジカの捕獲を推進する体制を整えています。

獣害対策は管理すべき頭数という明確な目標もあり、即効性や最適解を求めて情報収集と検証・分析を重ねる日々が続くことと思います。

今後も県・市町村、地元関係機関と連携を図り、一層の対策効果が上がるように努めていきたいと考えています。

忌避剤散布勉強会の様子

公社だより

針広混交林化について

公益社団法人
ふくしま緑の森づくり公社

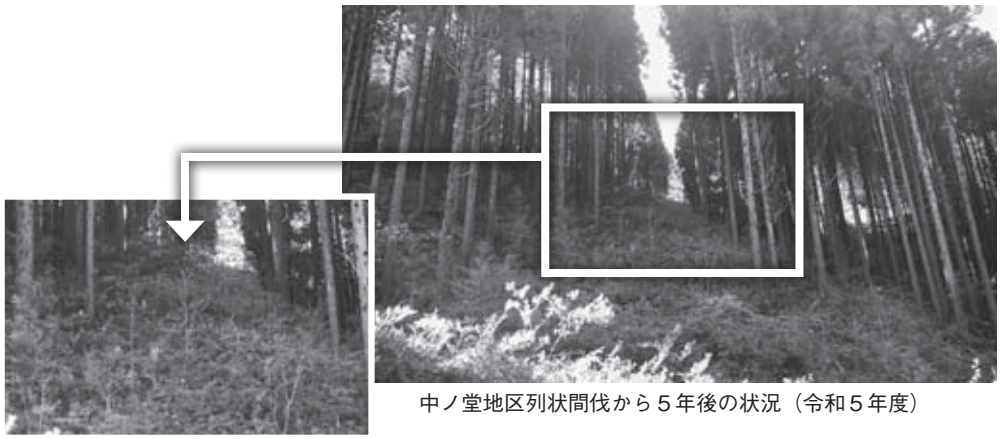
昨年度、田村市都路町岩井沢地内の公社造林地「小保内」地区において、針広混交林化を図ることができるか実証することを目的として、三六年生のスギ林内に一〇㍍幅伐採三〇㍍幅残と、五㍍幅伐採一五㍍幅残の二種類の列状間伐を実施し、それぞれ試験区を設定しました。

今年度、この試験区の状況確認をしたところ、昨年設定したばかりということもあり、サクラ類やカエデ類、シデ類等、もともとスギ林の中で生育していた高木性広葉樹の萌芽は見られましたが、実生は調査するほど見られませんでした。伐採から二年が経過する次年度には、高木性樹種の稚樹の発生本数や苗高などの詳細を調査する予定です。

これまでに公社造林地で列状間伐をした事例では、平成三〇年に二三～三〇年生のスギ林を五㍍幅伐採一五㍍幅残の列状間伐を実施した福島市庭坂地内の「中ノ堂」地区があります。

中ノ堂地区列状間伐時の状況（平成30年度）

この公社造林地について、列状間伐実施から五年目となる今年、状況確認をしたところ、ホウノキやサクラ類、カエデ類等の高木性広葉樹が多数、草本類よりも伸長している様子が見られました。



中ノ堂地区列状間伐から５年後の状況（令和５年度）

この事例の場合は、南向き斜面を南北方向に伐採しており、比較的条件の良い造林地ですが、前述の小保内地区の試験区は、三方を広葉樹の保護樹帯やカラマツ林に囲まれてはいるものの、北向き斜面で光環境の面では条件が悪いといえます。

今後とも、条件の異なる様々な林分において事例を蓄積し、契約期間満期を迎える際には狙いどおりの針広混交林を完成させられるよう、知見を深めてまいります。

トピック

間伐材のクリスマスツリーを展示しました

当公社では、十二月十八日から二六日まで、福島県自治会館一階エントランスホールにおいて、毎年恒例となっている間伐材を有効利用したクリスマスツリーを展示しました。今年はヒノキを使い、皆さんに楽しんでいただきました。

木の文化を育む㊽

薪を使う暮らしの創出（ふくしま薪ネット）

郡山女子大学　生活科学科　建築デザイン専攻　准教授　阿　部　恵利子

○はじめに

近年、太陽光発電や風力発電、水力発電等、電気に変換できる再生可能エネルギーが注目されています。木質バイオマスエネルギーと同様に薪や木質ペレットも温室効果ガスとなるCO_2の削減につながる天然資源です。古来、薪は煮炊きをしたり、暖を取ったり、暗闇を照らすなど、私たちの暮らしを支えてきました。手入れを必要とする森林が豊富にある今日、薪を使う暮らしは、森林の活性化と共に私たちの暮らしを豊かにします。

○薪ネット構想

二〇〇一年より木質バイオマスの活用を推進し、里山の再生や間伐をしながら森林・林業活性化のためにさまざまな活動をしてきた渡部昌俊さん（郡山市）は、二〇〇四年に「ふくしま薪ネット」を立ち上げ、木質バイオマスを有効に活用することで、地球温暖化防止や森林・林業の活性化、循環型社会の構築を目指して、薪を焚く人々を支援しています。

○木質バイオマスの利用拡大

間伐されずに放置された森林や里山の荒廃、温室効果ガスの増加などの課題解決のため、渡部さんは多くの人々が薪ストーブやペレットストーブ等を利用することを推奨し、木質バイオマスエネルギーの利用拡大を目指しています。薪ストーブ等を使用し、一人ひとりが薪のある暮らしを実現することで森林や里山が蘇ります。

○薪割りクラブ

渡部さんは深澤光著『薪割り礼賛』を参考に、福島県内でも薪割りクラブを立ち上げました。薪割りクラブでは、森林所有者でない一般の人でも森の木から薪を作ることができます。薪を必要とする人々が集まり、除伐、間伐を行うことで薪を入手できるシステムです。森林所有者にとっては、自分ではできない森林の手入れをしてもらえる一方、薪の欲しい人にとっては、薪を安価に仕入れることができるというメリットがあります。「この薪割りクラブを、各地に立ち上げることができれば、間伐されずに放置された森林や里山の荒廃、温室効果ガスの増加など、今日における課題解決の一助になるのでは」と渡部さん。

○まとめ

東日本大震災後、福島の森林状況は激変し、木材利用をはじめ薪割りクラブの活動の仕方も変えざるを得ない状況に至りましたが、薪を必要とする人々が集い、楽しみながら薪を入手できるコミュニティとなっています。「ふくしま薪ネット」は、各地の薪割りクラブの情報交換の場として、私たちの暮らしを支えるプラットホームとなっています。

深渡戸薪の会：須賀川市深渡戸地内
大勢の方々が参加し、伐採や玉切りなどを行いました。

薪割りクラブの活動の様子

県森連いわき共販における木材市況（12月分）

令和６年１月１日
福島県森林組合連合会

（単位：㎥当り千円）

素材					
樹種	長級（m）	径級（㎝）	高値	低値	摘要
スギ	4.00	9下	12.0	11.5	
		10～13	14.0	13.5	
		24上	14.4	13.5	
	3.65	16上			
		24上	14.0	13.0	
	3.00	9下	10.2	8.0	
		10～13	12.0	11.5	
		14～16	13.3	12.5	
		18～20	17.2	16.2	
		22上	17.5	16.3	
	6.00	16～20			
	2.00	16上	7.5	6.0	
ヒノキ	4.00	10～13			
		14～16	18.0	17.0	
		18～20	22.1	20.5	
		22上	24.0	22.0	
	3.00	16～20	18.0	16.8	
アカマツ	4.80	18～22			
	4.00	18～22			
		24上			
	3.00	16～22			
		24上			

素材					
樹種	長級（m）	径級（㎝）	高値	低値	摘要
カラマツ	4.00	12下			
		13～14			
		16上			
クリ	4.00	16上			
	3.00	16上			
モミ	4.00	20上			

市況概要と市況展望	１月の共販日
今月中旬頃から入荷量は増えました。販売量は2,298㎥（前年同月比99％）でした。 市況は、スギ3.00m、4.00m材ともに急騰していましたが、ここにきて若干落ち着いてきました。 先行きこの状況が続くものと思われます。 初市に向けて出材よろしくお願い致します。	９日㈫ 17日㈬ 29日㈪

行事とお知らせ
１月９日㈫　初市　　いわき木材流通センター
県森連の木材市況は、県森連のホームページでもご覧いただけます。 福島県森林組合連合会　木材市況　検索

ふくしま東西南北

五輪レガシー材の新たなスタート
～御薬園編～

福島県会津農林事務所　佐藤春菜

東京五輪・パラリンピックで選手たちの生活を支えた県産材が、令和四年度に会津若松市にある御薬園に譲渡されてレガシー利用されています。

御薬園は、室町時代に霊泉が湧き出した場所に当時の会津領主が別荘を建てたのが始まりと伝えられています。

その後、会津松平家二代藩主が領民を疫病から救うために薬草園を整備し、三代藩主が園内で朝鮮人参を試植、領内への作付けを広く推奨したことから「御薬園」と呼ばれるようになりました。

戊辰戦争をくぐり抜け、昭和七年には国の名勝として指定された庭園や御殿は季節ごとに様々な姿を見せ来園者の目を楽しませていますが、雪国かつ屋外の施設であるため環境的な負荷はどうしても避けられません。

そのような状況の中、御薬園に辿り着いたレガシー材約一・八立方㍍は職員自らの手で加工され、薬用植物標本園を彩る藤棚を支える筋交い、御茶屋御殿南側の池にかかる八つ橋の橋桁・床板に生まれ変わりました。

庭園管理長の小林さんに当時の感想を伺うと、「丸鋸しか無いため長尺材の取扱は非常に困難だったが、大きな材が手に入りづらい状況で必要な資材が確保できて良かった。」とのお話をいただきました。

皆様もお立ち寄りの際は、美しい庭園風景を楽しみながら、形を変え未来へと引き継がれるレガシー材を探してみてください。

筋交い施工

八ッ橋

はなしのひろば

突然に

新しい朝の新しい空間に、雀の声が軽やかに聞こえてくるのは、至極いい。昨日の今日という一日なのに年明けのこの新しさがいい。数日も経てば、また代わりばえのない日常だが、せめて令和六年三六六日の初めの日だけは、身の回りの暮らしに「新しさ」を感じてみたい。

今年の干支は「辰」（龍）。十二支の生き物は、身近な動物が多いが「龍」となると、これは空想上の生き物で「龍神様」という神様になる。神様は、物理的な体を持たない生命エネルギー（ご神気）であり、龍神様を描いた絵を見ると、確かに身体をよじり、天をめがけ昇っていく様は、力強いエネルギーさえも感じる。そして、空想上の龍は、龍神様のアシスタントらしい。何をアシストするのか想像もつかないが、その世界では、色々とお世話をすることがあるに違いない。また、龍神様は、気象や世の中の流れを司っているといわれる。突然雨が降ったり、突然風が吹いたり、突然水面が波打つ時など、龍神様がそばにいると言われ、その時心に閃いた言葉が龍神様のメッセージになるらしい。今年は、その「突然に…」を少し意識して、閃いたメッセージを書き留めておこうかと思う。

ところで、我が家の門のところに樹齢四〇年ほどのハクモクレンが植えてある。見上げると、たくさんの蕾がもう斜め上方向へと向いている。ここにもご神気が宿っているではないか。その蕾の白い固さが少しずつ緩んで、ハクモクレンの花の完成形になる季節までもが、待ち遠しく感じられる新しい朝である。

（都）

表紙の写真

「出荷待ち・木材資源」

第20回ふくしま森林・林業写真コンクール
最優秀賞（福島県知事賞）
受賞者　片桐勝美さん（喜多方市）
撮影場所：北塩原村
コメント：立派な木材が積まれ管理されて使用される出番を待っていました。

編集　福島県
福島県内四森林管理署
福島県森林・林業・緑化協会
福島県森林組合連合会
福島県木材協同組合連合会
福島県農林種苗農業協同組合
ふくしま緑の森づくり公社
森林研究・整備機構福島水源林整備事務所
福島県森林・林業・緑化協会

発行　（福島市中町五番一八号県林業会館内）

発行人　飯沼　隆　宏

陽光社印刷株式会社

（定価　一一〇円）

お知らせコーナー

「広がろう・つながろう」
第48回福島県児童・生徒木工工作コンクールの表彰式を開催

福島県木材青壮年協会では、子ども達の想像力を伸ばし、木をもっと身近なものにしてもらいたいとの思いから、児童・生徒木工工作コンクールを開催しています。

今年で48回目となる当コンクールは、木を使ったモノ作りから活動の輪が広がることで、家族や仲間との絆が深まり、想いがつながっていくことを期待して、「広がろう・つながろう」をテーマに、県内の小学生から455点の応募がありました。表彰式は、令和５年11月25日にいわき市で行われ、上位15作品の入賞者と来賓をお迎えし、約50人が出席しました。（一般財団法人福島県林業会館「フォレスト協賛金」を活用しています。）

入賞者の皆さま

入賞者名簿

賞		作品名	入賞者氏名	学校名・学年
最優秀賞	福島県知事賞　第１部	たこつぼに入るたこ	舟山凛太朗	いわき市立泉小学校４年
	福島県知事賞　第２部	木龍	木村　惺	いわき市立磐崎小学校５年
優秀賞	福島県教育委員会教育長賞　第１部	くじらのジャンプ	安西　来真	福島市立野田小学校３年
	福島県教育委員会教育長賞　第２部	ツリーハウス	阿部　優菜	いわき市立泉北小学校５年
	関東森林管理局長賞	空まで届けねがいをこめてハウス	吉田　樹生	いわき市立上遠野小学校４年
	いわき市長賞	夏の砂浜	和田　千広	いわき市立小名浜第二小学校６年
	福島民報社長賞	沈没船	齊藤　隆明	いわき市立小名浜第三小学校６年
	福島県木材協同組合連合会長賞	キリン	髙萩　慎	いわき市立高野小学校６年
	福島県林業会館理事長賞	パパのトラック	舟山准之助	いわき市立泉小学校１年
	NHK福島放送局長賞	穴をのぞくと…。	筥崎くるみ	いわき市立植田小学校５年
	ラジオ福島社長賞	夏の打ちあげ花火	髙野　修斗	いわき市立泉北小学校４年
	福島テレビ社長賞	エジプト	和田　晃義	いわき市立小名浜第二小学校３年
	アクアマリンふくしま賞	なつの生き物	渡邉　杏	いわき市立中央台東小学校３年
	福島県木材青壮年協会長賞　第１部	森の一家	松本　麗	いわき市立小名浜第三小学校４年
	福島県木材青壮年協会長賞　第２部	山登り	石井そよか	いわき市立郷ヶ丘小学校６年

最優秀作品　第１部
「たこつぼに入るたこ」

最優秀作品　第２部
「木龍」

備えのパートナー 森林保険

こんな災害からあなたの山を守ります。

1 火災
山火事で受けた損害

2 風害
暴風による根返り、幹折れなどの損害

3 水害
豪雨、洪水による埋没、水没、流失などの損害

4 雪害
大量の積雪による幹折れ、根返りなどの損害

5 干害
乾燥による枯死などの損害

6 凍害
凍結、寒風などによる枯死などの損害

7 潮害
潮風、潮水浸水などによる枯死などの損害

8 噴火災
火山噴火による焼損、幹折れ、埋没、根返りなどの損害

《保険の対象となる森林》
竹林や人手の全く入らない天然林を除き、面積が0.01ha以上であれば、樹種、林齢に加入制限はありません。

《ご相談・お申し込みは》
◆福島県森林組合連合会
TEL024-523-0255㈹
または最寄りの森林組合

For the future with forest

イワフジ工業株式会社

http://www.iwafuji.co.jp/

（ 仙台支店 ） 〒981-3133 宮城県仙台市泉区泉中央1丁目16-6
TEL 022-347-3689 FAX 022-347-3699
（ 本社 ・ 工場 ） 岩手県奥州市水沢字桜屋敷西5-1
（ 支　　店 ） 札幌・東北・仙台・関東・中部・関西・中四国・九州

林業福島　一月号　通巻第七一三号
令和六年一月一日発行
（毎月一回一日発行）
監修　福島県農林水産部
編集発行人　飯沼　隆宏
発行所　公益社団法人福島県森林・林業・緑化協会
福島市中町五番十八号　県林業会館内
定価一一〇円（税込）
年間購読料一、九八〇円（税・送料込）

RICOH
東北コピー販売
福島office 福島市御山一本松13番5号 TEL 024-559-0245
郡山office 郡山市富田町後久保60－1 TEL 024-961-1961
https://t-copy.co.jp